

サミュエル・ラヴァー

1 モリー・カルー

ああ ナンテコッタ 一体どうすりゃいいんだ
俺の恋人ときたらそっぽを向いて
新芽に降りる霜のような冷たさ
俺にとっちゃあ 寝ようとしたって無駄なこと
ユメにお前がちらついて 頭は眠れやしないんだから 5
すべてお前のせいだよ
俺の恋人 モリー・カルー
本当に罪深い女だよ
お前はどこを取ったって
自然よりも完璧 10
お前のその顔の白さには
雪だって足元にも及ばない
その目の瞬きさえ見れるなら
空に一番輝く星なんかどうだっていい
これに誓って あれに誓って 15
実のところ
お前はあの星よりもずっと遠い存在だ
ああ ナンテコッタ マリア様
お前がいなけりゃ俺はこの世じゃ独り者

ああ ナンテコッタ 一体何だって俺は 20
顔や目のことをブツブツ言ってるんだ
かのパディ・ブレイク先生が
お前の鼻のことをなんとか韻文にしようとしてるのに
バークとかいうやつなら 崇高なしし鼻と呼ぶだろうってさ
それにお前のその頬 25
その美しさを表現しようというんなら
マジで 1週間はかかるだろうよ
それにお前のその口唇 ああ マイッタ
その艶やかな紅色は
さくらんぼうさえも 30
手本とするかもしれねえな
我らが母を誘惑したのはリンゴだったっていうじゃねえか
リンゴはキチョウだったのさ 昔はな
でもよ このご時世だ

良心にかけて 俺は言えるぜ 35
こんなさくらんぼうなら父親だって誘惑されるって
ああ ナンテコッタ マリア様
お前がいなけりゃ俺はこの世じゃ独り者^{もん}

ああ ナンテコッタ 月に住む男にかけてもいい
お前はいつも俺をイジリやがる 40
女の手練手管を使ってだ
お前はあのコソ泥パット・マギーとなら倍もはずむくせに
俺とジグをする時なんかちょっとじゃねえか
あの老いぼれ笛ふきが
お前のお気に入りの曲を忘れちまわねえように 45
俺は袖の下まで渡してるってのに
お前がミサにきたときゃ
俺の祈りをお前が邪魔する
だって俺が考えているのはお前のことだ
本当だって モリー・カルー 50

お前はわざと帽子を目深に被り
その可愛い顔を俺にはちらりとも拝ませちゃくれない
ああ その帽子を取ってくれ
じゃなけりゃあ その上に
俺のさまよえる魂の抜け殻を置いてってやる 55
ああ ナンテコッタ マリア様
ああ ナンテコッタ ふくろうみてえに
お前がいなけりゃ俺には昼も夜みてえだ

ああ ナンテコッタ そんなにせつつかねえでくれ
俺を好きだって女は 60
五万といるんだ いや十万か
お前はひっくり返るかもしれねえぞ ある朝
俺の結婚式の行列が堂々と行進していくのを見たならば
マジで 目を見開いて
びっくりして死んじゃうかもな 65
まさかその日の相手が自分じゃないなんて
マジな話 カティ・ネイルと
その雌牛は 俺がこう言やあ
きっと 飛び上がって喜ぶだろうよ
「カティ・ネイル 式はいつにする」 70
お前は確かに五月の朝のように色白で瑞々しく
カティは寒い冬日のように背も低く浅黒い

でももしお前が悔い改めないのなら
イースター前 レントの時期が過ぎれば
結婚してやるからな ちくしょうめ
ああ ナンテコッタ マリア様
お前のせいで俺が死んだら
亡霊になって毎晩つきまとしてやるから覚悟しろ

75

(三木菜緒美訳)